NPO法人 旧鈴木家跡地活用保存会　静岡県浜松市

庄屋屋敷の再生による多様な人の交流拠点化

きれいに改修した弓道場の的場の前で

団体設立経緯

2010年、地権者から浜松市に、室町時代から続く旧鈴木家の庄屋屋敷跡地（1万4000m²、4300坪）が寄付されました。市では2020年3月完成を期して公園化を進めてきましたが、2016年始めに敷地内に残る明治期の建物（母屋、離れ屋、弓道場射場、弓道場的場、土蔵、納屋、祖霊社）は撤去の方針となりつつありました。

これを機に、それまで市と共に敷地内の清掃、樹木の剪定などに従事していた地元住民らで建屋保存とその活用に向けて『NPO法人旧鈴木家跡地活用保存会』を立ち上げました。

活動概要と活動対象範囲

2011年以降、地域住民らで敷地内の草刈り、樹木の剪定を毎年数回実施してきました。2015年、市より敷地を借り受け、住民らでグラウンドゴルフ場の造成や、弓道場の射場を休憩施設として改修しました。2018年にはグラウンドゴルフ場利用者は、年間のべ8000人にもなりました。

NPO法人ではこれらの活動を継承しつつ、「この旧鈴木家屋敷に残る明治期建築の日本家屋を改修し、地域の交流拠点として活用したい」と、その改修と活用に向けて活動しています。地域の中学校区のエリア約3000戸を中心に、浜松市全体が活動対象範囲です。

活動に至った理由や背景

建物は老朽化と予算上の理由から、撤去の方針となりつつありました。しかし、「情感ある伝統的日本家屋を多世代の交流拠点とし、地域課題の解決を図りたい」という、NPOの設立趣旨も考慮され、地域で改修、管理することを条件に、当面取り壊しを免れています。

母屋の改修には数千万円が必要ですが、弓道場の的場ならば規模も小さいので、市民参加で再生を実施できそうです。それを通じて母屋再生の趣旨を多くの人に伝え、母屋や離れ屋の改修資金調達や、日常の活動参加へと結び付けたいと、的場再生活動を働き掛けることとなりました。

活動内容と成果

弓道場的場の再生

・第1回　旧鈴木家屋敷跡地のミニ見学会と建屋再生プロジェクト説明会
　7月14日（土）10時から12時
　内容：弓道場の的場再生の趣旨説明と鈴木家の紹介、敷地内見
　参加者：25名

「的場」とは、弓道場施設（射場&的場）の1つで、旧鈴木家の建物群として遺されています。しかし母屋などと同じく老朽化が激しく、このままだと崩壊の危険があります。

修復前の的場。瓦と壁が朽ちています。

弓道場の射場で説明会を開催。向うに的場が見えます。

参加者全員で「よし、やるぞー！」

まずは足場の設営から取り掛かります。

古い瓦を使えるものと使えないものに選別していきます。

傷んだ瓦を取り外しながら、下地材を修復します。

そんなことから、これを再生しようとの活動がスタートし、その1回目として7月14日、説明会と見学会を開催しました。主催者側から、旧鈴木家の歴史や的場再生の意義などについての説明の後、弓道の達人が古式にのっとり、工事の安全を祈願して弓を射てくれました。初めて見る人も多くみな驚嘆していました。

来場した人たちは、同時に母屋や離れの見学をしました。傷みの激しさを目の当たりにして、修復の必要性を実感してくれたようです。

・第2回　的場再生プロジェクト
　9月1日（土）9時から12時
　内容：作業用足場組み立て・保存古瓦の使用可否の選別
　参加者：25人

1回目の説明会に続いて実質的な作業が始まり、たくさんの参加者に協力いただきました。

天候不順の中でしたが、専門家の指導の下、的場の裏に放置してあった古瓦の使用可否をプロが選別し、瓦礫を含めて整理しました。的場の周辺に足場を設置し、支え柱で仮の補強をし、周辺を片付けて次回の作業に備えました。

・第3回　的場再生プロジェクト
　9月8日（土）9時から17時
　内容：傷んだ瓦の取り外し、腐食の激しい下地材の修復
　参加者：19人

プロによる直接の作業によって、傷んだ瓦を外し、腐食の激しい下地部分を修復しました。プロ以外の人たちは指示に従い、部材の受け渡しや運搬、瓦礫の始末など、その他大勢以上！の活躍をしました。

専門家と参加者の連携で、作業を進めていきます。

屋根を支える下地材もきれいに修復。

12月13日、瓦を並び終え足場が撤去されました。

・第4回（10月6日、8日、9日）

実施予定でしたが、台風21号、22号、24号がこの地域に連続して襲来。多くの家々で瓦が損壊、建物の破損という大きな被害が出ました。

作業指示できる大工さん、瓦屋さんの仕事が立て込み、我々の作業は当面中止となりました。

・第5回（12月6日、7日、10日、11日）

やっと瓦屋さんの仕事がひと段落つき、我々の指導に当たっていただけることになりました。

台風の被害が大きく、瓦の破損部分が当初よりも広がり、瓦屋さんの仕事が多くなりました。大工さんも瓦の下地材の取り付けです。私たちは下から材料を屋根に上げる作業です。

・第6回（12月13日）

ついに高所作業が終わり、足場の撤去作業となりました。

・第7回（2019年2月27日、3月1日）

大工さんによる、傷んだ土台材の撤去と新しい土台材の取り付けです。これはさすがの職人技です。見事な仕上がりになりました。

・第8回（3月5日、6日、9日）

ようやく左官屋さんの出番です。ぼろぼろになって傷んだ壁を撤去します。そこにボードを取り付け、プロの技で漆喰を塗ってもらいました。

・第9回（3月14日）

いよいよ安土と呼ばれる的を置く土盛りの修復です。浜松市弓道連盟の指導者お2人の指導で、崩れていた安土がきれいになりました。的を置くと建物に気品が漂います。

・第10回（3月19日）

建物左側の物置部分の床のコンクリート打ちと、白木部分の塗装です。塗装すると風格が増しました。

・第11回（3月22日）

建物周りの片付け作業を実施しました。保全のために周りに柵をつくって完了です。

ホームページ制作と公開

一般の人に旧鈴木家の室町時代から続く庄屋としての歴史、敷地に残る明治期の建物の解説、NPO法人旧鈴木家跡地活用保存会の活動趣旨、イベント参加募集などを伝えるための手段として2018年10月完成、公開しました。

パンフレット制作と配布

上記内容を、ネットの利用が苦手な方々（主に高齢者対象）を対象に紙媒体で作成。2019年2月完成、配布を始めました。

課題と解決方策

的場の改修を通じて、旧鈴木家屋敷の歴史や価値に気付いてもらい、「母屋を中心に建物を改修し、地域の笑顔あふれる多世代交流拠点として活用していこう」という、活動への理解者・共感者、支援者の増加を目指しました。しかし、「庄屋屋敷を再生するべき」との十分な機運の高まりを見るまでには、現段階では至っていません。また、改修資金の目途も立ってはおりません。

今後は、クラウドファンディングの可能性を探ります。併せて、母屋を使って事業展開を進めるPark-PFIについて、市と共に探っていくなどの方向も模索します。

他のまちづくりを担う団体と協働して、旧鈴木家の歴史的価値の告知活動や、子どもの居場所・高齢者の集う場として位置付けるべく、いくつかの活動プログラムを試行していきます。

今後の予定

再生した弓道場の的場と射場については、地域交流活動を実施していきます。母屋と離れについては、市と共にPark-PFIの可能性を検討していきます。旧鈴木家の庄屋としての地域の役割、地域の歴史や屋敷内の建物群の価値を伝えていく為の手段として、紹介本を作成。地域や学校に配布していきたいと考えています。

傷んだ土壁は撤去します。

上から板を張り付けていきます。

適宜判断しながら修復していきます。

傷みが激しい漆喰と板壁。

木の部分も塗装していきます。

的を設置する安土を修復します。

漆喰を塗り直し、裏側にあった板壁を流用しました。

弓道の有段者の指導を受け、盛り直した安土に的を置いていきます。

足掛け10カ月をかけて、弓道場の修復が完了しました。

●特定非営利活動法人 旧鈴木家跡地活用保存会

設立年月	2011年2月（2016年3月法人化）
メンバー数	正会員：21人／賛助会員：50人
代表者名	村木 正彌（むらき・まさや）
住　所	〒431-3111　静岡県浜松市東区中郡町699-1 村木方
電話/ファクス	053-434-1877（村木）/053-569-2589
Eメール	contact@mangoku-park.com
ウェブサイト	https://www.mangoku-park.com/

【団体のミッション】私たちは室町時代から続く庄屋屋敷、旧鈴木家跡地（4,300坪）に残る母屋、離れ屋、弓道場を改修、再生して多世代交流拠点として活用しようと活動しています。